

自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 鵜沼第 1 自治会連合会
2. 日 時 平成 28 年 6 月 9 日（木） 19 時 00 分～21 時 00 分
3. 場 所 鵜沼福祉センター
4. 出 席 者 自治会長 12 名、 市長、 企画総務部長

<内容>

○市長のあいさつ

○連合会長のあいさつ

○行政の説明

- ・しあわせを実感できるまちづくりについて
- ・新庁舎の建設について

○テーマ概要

テーマ①：コンパクトなまちづくりを将来計画の中に据える

テーマ②：鵜 1 校区にある史跡・景勝地を結ぶネットワークの改善と周知・広報

テーマ③：「健康と体カづくり」のスポーツゾーンの整備

テーマ④：防災体制（訓練）の見直しについて

○提言による懇談

テーマ①：コンパクトなまちづくりを将来計画の中に据える

<南町 6 丁目南自治会長>

コンパクトシティの考え方を取り入れる必要があると思います。熊本の震災の復旧状況を見ると電気、ガスはいち早く復旧しましたが、水道は遅れている実態があります。市等が直営しているインフラの復旧に時間がかかっていることが問題であります。本市の総合計画等をみましてもインフラのメンテナンスのことについては一読で判断することは難しいと私は思っています。

鵜 1 校区内を見ても農地の中に住宅が点在しており、インフラ整備がされています。インフラ整備をすれば必ずメンテナンスが必要となります。維持管理費が市財政に影響することが懸念されると思います。

そこで、将来都市経営に発生すると予想される問題点を予測し、問題の発生を未然に防ごうとするコンパクトシティの考え方を取り入れ、農地の中に点在する住宅を、住宅街の中に戻していく方向性を総合計画の中に盛り込み実施していく必要があると思います。

<市長>

大きな提言をいただいたと思います。コンパクトシティの考え方は 10 数年前に定義され、各々の市町村にとって手法等は異なると思いますが、人口減少等を含め重要なことだと認識しています。本市におきましても 28 年 3 月に策定した「各務原市都市計画マスタープラン 2016」の中で、「集約型都市構造の形成」等を位置付けさせていただいています。コンパクトな街を作ることになり、道路や上水道、下水道といった生活に欠かせない機能もコンパクト化でき、将来の

維持管理にかかる負担も軽減できます。市内でも街づくりを積極的に進める市街化区域の周辺や市街化調整区域において農地内に住宅が点在する地区があり、「コンパクトな街づくり」のためには、より多くの人に集合して住んでもらうことが、必要不可欠です。一方で市街化調整区域であっても、小学校や駅がある地区もあり、ある程度人が集まる地区として検討する必要もあります。

人の集まる地区の検討にあたっては、周辺の市町の動向を見ながら、大きな方向性を決め、地区にあった形で、人を集める計画を立てる必要があると思います。

高齢化が進み、人口が減少することにより、厳しい財政状況となる中、道路や上下水道、施設等の維持管理にかかる費用を抑えることや今ある施設等を最大限利用することが求められ、施設等の修繕や更新を計画的に行う計画をたて、費用の軽減をしていくことが、活力の維持、向上につながり、さらに若い人たちに各務原市に住んでいただくことも必要と認識しており、生活環境や便利さの向上、産業の活性化や子育てしやすい街づくりなど、市の魅力を高め、「各務原市都市計画マスタープラン2016」における平成36年度定住人口フレーム14万5千人を目指していきたいと考えています。

<羽場町2丁目自治会長>

上下水道の話からは少しずれますが、中流用水のことで伺います。自宅付近の道路に用水のエア抜きがありますが、毎年、数回水が溢れ出し道路が冠水します。施工は県が行いましたが、管理は市と聞いています。安心安全な街づくりの観点からも改良が必要な気がします。

<市長>

現場等の確認ができていませんので、調べさせていただき報告させていただきます。

テーマ②：鵜1校区にある史跡・景勝地を結ぶネットワークの改善と周知・広報

<小伊木自治会長>

鵜1校区には多くの史跡・景勝地がありますが、これらの史跡・景勝地は個別に紹介され、それらを結ぶネットワークは紹介されていないように思います。たとえば、大安寺川左岸の整備により、犬山から鵜沼宿への誘導も可能な状況にあります。的確に発信されていないような気がします。今年度、木曾川河畔遊歩道も整備されて観光客誘致の条件も整いつつあります。それ以外にも、おがせ池・山中不動・自然遺産の森、鵜沼宿・翠池・坊の塚古墳、八木山、愛宕神社等のたくさんのコース設定があり、鵜1校区から始まる、これらのネットワーク情報はますます重要と考えます。ネットワークの整備にあたり、木曾川河畔遊歩道と大安寺川遊歩道の交わる地点には、交通量の多い車道を横断する必要があります。調べてみますと少し西側の城見公園から大安寺川遊歩道に入るようですが、私の考えではネットワークの構築にはスムーズな人の移動も必要と思いますので、車道下を通す歩道等の整備が必要と思います。先ほど申し上げました他のコースのネットワーク化を進めるに当たり、情報の発信とスムーズな人の移動ができることも重要と考えています。

<市長>

市では、鵜沼地区の史跡だけでなく、市内一円の史跡・名勝地をネットワーク化し、ハイキング、ウォーキングするためのコースを作成しています。また、ハイキングコースは徒歩での移動が原則と考え、公共交通機関を利用して、各務原市を訪ねることを前提としています。各コースをネットワーク化することは公共交通機関を通じてなされていると考えています。市外か

らの観光客を対象とした市内ハイキングコースは、MAPパンフレットを作成し、配布しています。また、鉄道事業者と連携したハイキング大会を実施し、年間1万人以上の方が訪れています。

中山道鶉沼宿ボランティアの皆さんが作成した「各務原市内史跡巡りウォーク」を、昨年度よりリーフレット化し、情報発信をしています。また、情報拡散を目的に今年度より、市観光協会がウォークラリーを実施し、ボランティアガイドを利用した方にはシールを集めていただきシール5枚以上から市内事業者さんの特産品と交換できるシールラリーも行い、市も支援していく方針です。今回のご提案は、今年度、市として観光・健康づくりの観点からも、力を入れていることとあります。

もう1点のコースの接続につきましては、現在工事を実施している木曾川河畔遊歩道から大安寺川遊歩道への動線につきましては、ライン大橋北側交差点の横断歩道を利用し、そのまま北進したのち城見公園を経て大安寺川遊歩道に接続する計画となっています。歩行者用誘導標識を設置していますが、皆様のご意見等を伺い、標識の修繕等を対応していきます。県道下をくぐるご提案については、新たな通路橋は河川断面であり、管理上河川内に設置することはできませんので、天王橋から西へ進むコースとしました。

その他にも本事業では、各務野歴史街道の整備として、中山道鶉沼宿から翠池、坊の塚古墳、皆楽座、おがせ池、各務野櫻苑、村国座といった歴史的・景観的に優れた拠点をスムーズに散策できるよう案内標識を整備して、ネットワーク化を強化しているところです。

テーマ③：「健康と体力づくり」のスポーツゾーンの整備

〈丸子町西自治会長〉

子どもから大人まで体力づくりを兼ね、これからの高齢化社会に向けての諸施設（伊木山登山・テニスコート・市民プール・少年自然の家）の活用と寝たきり高齢者ゼロを目指して施設の再整備を実施していただきたい。一つの例として、伊木山登山路は、若人は登ることもできますが、高齢者にはきつくて登れない状況であり、高齢者も安全に登れる再整備等をお願いしたい。

また、東部地区のスポーツゾーンとして整備し、東部地区の住民が近くて楽しめるゾーンとしての整備をお願いしたい。

〈市長〉

特に、高齢者の方に向けてということですが、本年度から実施しましたスポーツ推進計画、昨年度から実施しています第6期高齢者総合プランがスタートしています。スポーツ推進は高齢福祉課の所管とは異なりますが、しっかり連携し、市民プールの空き部屋、空き時間を活用した高齢者の体力測定をはじめとする、「介護予防事業」の場として提供するとともに、高齢者にとっても魅力ある施設となるよう展開していきます。また、体力づくりを目的として、トレーニングルームの利用をおりませ、伊木の森、中山道鶉沼宿、また、犬山城を経由した、ウォーキングイベントも企画し、東部地区の施設を活用した事業をさらに進めていきます。少年の家につきましては、すでに一部実施しています繁忙期をずらした時期(12月～2月)に、今年度から一般の方を対象に伊木の森施設を利用したトレッキング講座を実施し、将来的には紙すき講座、キャンドル作成講座等のクラフト講座、星座観測入門講座等の開催を検討しており、スポーツからは少し離れますが認知症予防として、開催していきたいと思っています。また、クラブサークル、生涯学習関係団体の方も対象としまして、各部屋を貸館業務として利用できるようにしたいと考えていま

す。なお、毎年、秋には、子どもフェスティバルを開催していますが、自然・科学など各種体験ができるイベントで親子にとらわれず、高齢者の方も参加いただきたいと思います。

テーマ④：防災体制（訓練）の見直しについて

〈羽場町 7・8 丁目自治会長〉

市の災害本部と各一次避難所に開設される現地連絡所及び各自治会連合会の対策本部との役割・連携。また、現地連絡所の自治会長・副所長を含む現地連絡所員の運営、避難誘導等に関する自治会と民生児童委員との連携等の状況に即した訓練が必要に思います。現在の地域防災訓練は毎年、炊き出し訓練、搬送訓練、消火器消火訓練が主体で、一次避難所の現地連絡所の運営、災害時要援護者用一次避難所の指定場所の公表、また、避難誘導等に関して民生児童委員と各自治会との役割分担・連携等が訓練、検証されていないため、現実に災害が起こった場合に場当たりの対応になるような気がします。これらの課題を毎年の地域防災訓練に加え、実際の災害時の対応に即した訓練をする必要があると思います。

また、自治会に発電機、照明灯等の準備もしくは助成等が必要だと思います。

〈市長〉

防災には、自助・公助・共助が必要と判断しています。市といたしましては、自主防災訓練を各自治会さんに実施していただきたいとの思いから防災対策課、消防本部が訪れさせていただき、ご支援、お手伝いをさせていただいています。市内には、388 の自治会があり、毎年 200 ほどの自治会さんがメニューを活用いただき自主防災訓練を実施してみえます。その次に地域防災訓練、市の総合防災訓練がありますが、まずは、自助、共助に努めていただくとの思いから、自主防災訓練の推進が重要だと思っています。

要援護者等の安否確認につきましては、地域によって実施している所があります。蘇原第 1 校区では、民生児童委員さんと自治会長さんが連携して、誰が、車イス等が必要で、誰が運ぶのかを自主防災訓練の中で実施してみえます。今回のご提案は全市的に広める必要があるとのご提案ですので、今年度の市防災訓練には、自治会さんと民生委員さんの連携による災害時要援護者の方々の安否確認訓練を訓練項目に取り入れさせていただきたいと考えています。

防災備品の自治会さんでの準備については、自治会地域社会活動事業補助金をご活用いただきたいと思います。

防災訓練は多くの方々や団体のご協力をいただいております。今年度の新たな取り組みとして、消防操法大会の各地区会場に、市から派遣する現地連絡所長を出席させていただき、自治会長、消防団の方々との顔合わせを行いました。いざというときの避難所運営、災害対応が円滑に行われることを目的としており、継続的に実施していきたいと考えています。

○連合会長からまとめのことは

○市長からまとめのことは